

(令和元年度)  
学校自己評価書

園番号	園名
615	奈良市立富雄北幼稚園

615奈良市立富雄北幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす幼児像を明確にし、全職員が共通理解のもと教育目標を設定する。</li> <li>友達と一緒にやり遂げる子どもの育成を目指し、教育課程の編成を行う。</li> <li>保護者アンケートを行い90%以上の評価を目指し次年度にいかす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が教育目標達成のために共通理解をし、研修・実践を積み重ねることができた。</li> <li>保護者のアンケートや評議員・地域コーディネーター等の部外者の意見のもとに次年度に向けて課題を明確にした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標を達成するための研修や園内研修会を実施し活発な話し合いや研修ができた。</li> <li>評議員の方や保護者のアンケートから90%の評価が頂いた。提出者が全員ではなかったので啓発をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育内容については、研究内容に即した具体的な内容にするとともに、保護者からの意見からは保育者の資質向上や共通理解、行事参観の見直し等が寄せられていたので、園としての取組の強化を図る必要がある。</li> </ul>
		② 教育計画の作成					
		③ 教育課程の編成					
		④ 教育活動の評価					
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研究会や職員研修での事例作成の際に指導計画の見直しを含む検討をする。</li> <li>全職員の保育内容や指導法についての自己評価アンケートで高い達成度の評価を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研究会では、保育実践を見て、カンファレンスを行う中で、工夫や改善方法を話し合ったり、子どもの育ちを共通理解したりすることができた。</li> <li>全職員の自己評価については、おおむね達成できたと考えている。中堅研修や事例研修、他の園の公開保育参加等で自分自身の質を高めることができたと考えている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師から3回以上の指導助言を受け、指導計画の見直しが図れた。</li> <li>全職員の自己評価の達成度が、目指していた数値であったことで評価できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の質の向上を考え奈良市立こども園カリキュラムを活用し、毎年、自園の実態に即した指導計画の作成をしているが、今後も努力していきたい。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育内容の精選を随時行いながら、指導計画の見直しを行い、新たに作成する。</li> <li>月に1度は、地域の方との話し合う機会を持ちながら、地域の方との連携を踏まえ、時期や園児の活動とうまく連動した計画を立案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の実践を再度見直し、行事の内容について全職員で話し合うことで、新しく変更したり見直しをしたりすることができた。</li> <li>地域の方や評議員、コーディネーターとの連携を数多く持つことで、園行事や地域行事の中で、連動して活動させることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事について、事前事後の話し合いを重視し、反省評価を行い次回にいかせるようにした。行事を終えた後は、子どもの遊びや表現活動に成果が見られた。アンケートでは、100%の子どもが満足している結果が出た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの中で、行事をイベントと捉え良い意見が多数あった。行事が多くなったり、遊びよりも重視したりしないよう、指導計画の見直しと再構築し、今後も幼児にとって実のある園行事を行う。</li> </ul>
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育推進指導計画に園児の現状を踏まえて立案し、コミュニケーション力の強化を図る。</li> <li>園生活の中で一人一人を大切にする保育を展開し、支え合うなかま集団づくりを目指す指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションが図れるような活動を行い、思いや考えを出し合う中で、互いの違いに気付き、困難なことや悲しいことや嬉しいこともみんなで話し合うことで、支え合う仲間づくりができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションが図れるような活動を、園の研究主題と兼ねることができるよう計画の中に位置づけ、実践したことで、発達段階に応じてみんなで話し合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中で自分の思いを出し合っていたが、話し合ってみんなで考え活動していきつつある段階なので、今後も、支え合う集団づくりの指導を繰り返していく必要がある。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で幼児理解を図るための研修を行う。</li> <li>子どもの内面把握や問題点について話し合う機会を持ち、みんなで共通認識を持って対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の共通理解のもと、保育者からの悩みにも迅速な対応に努めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回以上の職員会議の案件になり、全職員で話し合う機会を持つことができ共通理解が図れた。</li> <li>関係機関（子育て相談課や学校関係等）からの保護者と子どもの様子について連絡を取り合い、すぐに対応できる体制がとれるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者から、幼稚園に向けて子育ての悩みを打ち明けてもらえるように。様々な問題を全職員が共通理解し、問題解決に取り組もうとする意識を高めていきたい。</li> <li>今後も関係機関との連絡を取り合い、問題点や園では気付かなかったことを知らせ合うことで、連携を深め、保護者支援にあたるようにした。</li> </ul>
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議等（月1回）の話題にし、担任や保護者一人が抱え込むことの無いように、保育者間の支援体制を図ることができた。</li> </ul>	A		
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている		B		
			・各学級の状況を園組織として共有できている		B		
	⑤ いじめ・児童虐待問題について	・保護者や地域と連携できている	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が協力、保護者と積極的な連携を図り、子どもを中心とした話題から支援を行った。また、子どもの声や思いをよく聞いたり、保護者の思いを受け止めたりしながら、迅速に対応できるように関係機関と相談して対応した。</li> </ul>	A			
		・組織的に迅速に対応する体制が整備されている		A			
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画の立案と指導内容の工夫を行うときに、関係機関との連絡を密に取り、紙面で報告できるようにし情報を互いに共有する。</li> <li>特別支援が必要な幼児に対して、全職員で共通理解をして支援するために会議を持つ。</li> <li>特別支援教育コーディネーターを中心に資料提供や研修参加等を行い、助言をしていたり幼児支援をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連絡を取り、保護者の思いを聴き取りながら支援していくことができた。</li> <li>保育者間で特別支援の必要な幼児の様子を出し合い、個々の幼児理解を深め、全職員が共有し支援できる体制につながった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども発達センターやデイケアサービス、小学校等との紙面や電話連絡をしたり、直接現場の様子を見たりして交流を深めたりしたことで、保護者の思いを受け止めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援を要する園児全てが関係機関との連絡をとれているわけではないので、園より関係機関に発信して、支援の方法等を勉強し保育にいかしていけるようにする。</li> <li>特別支援児として見てほしくないけど支援をしてほしい保護者もおられるので、どのようにしていくか課題である。</li> </ul>
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和元年度)  
学校自己評価書

園番号	園名
615	奈良市立富雄北幼稚園

615奈良市立富雄北幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>園教育目標の達成のための明確な方針を行う。</li> <li>教職員一人一人の指導力を高め、発揮できるような適正配置を行う。</li> <li>教職員が協力、協働、共同体制で、問題解決できる環境をつくり、楽しく働ける職場つくりを努める。</li> <li>時間外勤務を減らし、効率の良い働き方を心掛け、モチベーションをあげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標や教育課程における研究内容を共通理解し、保育実践の取組において、園の教育目標を柱にした方針であったので明確に進めることができた。</li> <li>全職員が気軽に話し合える雰囲気づくりを進めていったことで、みんなが同じ目標や方向に向かっていくことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の教育目標に沿って、全体的な流れが把握でき、目的や方針等明確に表すことができた。</li> <li>協力する姿勢を全職員が持つことができたため、勤務時間内で達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園運営に対して、全職員が参画する意識をもって高められるよう努力していく必要がある。</li> <li>悩み等は、一人で抱え込まないでみんなで解決できるような自分の問題として捉えて取り組んでいく。</li> </ul>
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック公開保育や中堅教諭研修等の園内研究会を実施する。年3回以上を心掛ける。</li> <li>全職員がが保育実践に活かすために研修会や研修講座、講演会へ積極的に参加する。</li> <li>ユネスコスクールアシストプロジェクトやソニー教育財団「科学する心」等に実践事例論文を作成し、応募する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師招聘による研究会や公開保育を実施し、課題克服に努め、取組を進めていったことで日々の保育実践に活かすことができた。</li> <li>様々な講演会や研修会に積極的に参加し、全職員が勉強することができ、互いが研修し合ったことを報告することで、研修を深めることができた。</li> <li>ユネスコスクールアシストプロジェクトで世界遺産学習やESD教育を実施したり、ソニー教育財団で論文内容の寸評をいただいたりして各自高めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師を迎えての研究会や、他園の先生方からの助言を受けたことで、保育の質の向上につながったため。</li> <li>保育公開や研修会では、保育の課題が明確になり、特に他者の保育を見て刺激を受け反省と課題材料がわかり、保育の実践を積極的な取り組みと個々の意識が高められた。</li> <li>他者からの助言をいただいたことで違う角度から保育をみることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な指導や助言を受け、保育の質の向上に努められた経験を活かし、今後とも自ら研究に取り組めるようにしていくことや研修の機会を持つようにする必要がある。</li> </ul>
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
③ 園外の研修への積極的参加							
④ 園外研修内容の報告や伝達							
⑤ 研修成果の普及							
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルの確認及び再構築を行う。</li> <li>防犯、防災、交通安全指導の徹底を図る。</li> <li>定期的に用具や遊具の安全点検を行う。</li> <li>多方面でいろいろな方法の緊急体制の連携体制を探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の安全マニュアルや防犯、防災計画に基づいた毎月17日に「子ども安全の日」の降園指導や保護者受け渡し訓練、交通安全教室等を行い、保護者や職員全員が見直し、看板製作等行い充実することができた。また、月1回の避難訓練については、事前事後の指導を徹底的に行い、マニュアル通りすると各自が考えて行う等、自己管理を徹底した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な安全点検や管理を行うことができているため。</li> <li>『いかのおすしいちにんまえ』『おはしも』について子どもが他者に伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルを確実にこなすことができるように何度も打ち合わせを行い、見直し、繰り返し確認するような体制づくりに努めるようにする。今後も園内外の安全確保に地域の方の力を得ながら努めていきたい。</li> </ul>	
	② 防災計画の立案						
	③ 危機管理体制の整備						
	④ 安全指導の工夫改善						
	⑤ 家庭との連携						
	⑥ 関係機関との連携						
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員による健康観察や保健指導、身体測定、健康診断の実施を行う。</li> <li>保健、食育便りの手紙の発行やポスターの掲示を行い啓発する。</li> <li>アレルギー対策及びインフルエンザ等の流行病の徹底管理をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育に取り組み、育てた野菜を食べることで収穫を楽しみ食べる喜びを味わうことができた。</li> <li>流行病に関しては、確かな情報を取り入れ、関係機関と連絡を密にし、家庭での自己管理をしていただくよう口頭や手紙配布を行い、全員で取り組むことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の健康観察、手洗い、うがいの励行、アルコール消毒やマスクの活用により、感染症の予防に努め、早期対応と感染拡大を最小限に努めていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に応じた対応ができるように職員間の連携を密にした。</li> <li>保健だよりや食育だよりの啓発を工夫し、全員の保護者がわかるようにする。</li> </ul>	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備						
	③ 健康観察、健康管理能力の育成						
	④ 関係機関との連携						
	⑤ 昼食の衛生管理						
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>園だより、クラスだより、園長通信等の配布や掲示板、ポスター、ホームページ等で園の取組や様子を知らせていく。</li> <li>オープンキンダーガーデン（保育参観）、運動会、作品展、生活発表会等公開保育を実施する。</li> <li>P T A主催の講習会等の積極的な活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の取組を保護者や地域の方々あらゆる方法で公開し、園に対する理解と協力をしていただき、園が活性できるような工夫や取組の意見をいただいた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育に参加される方が増え、できる限り、文章化した手紙やドキュメントの作成等で全ての保護者が子どもの様子が良くわかると喜んでおられた。また、地域の方の参観の機会を多くしたことで園の教育力や保育内容がよくわかり幼児期に大切な力になることがよく理解できたと評価いただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを随時更新できなかったため、今後、定期的に時間の確保を行っていきたい。</li> <li>小学校との連携をマンネリ化にならないように連携の在り方や方法を探っていきたい。</li> </ul>	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ P T Aの活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育環境の充実に向けた整備や設備の取組をする。</li> <li>危険箇所や補修箇所の安全点検と整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の点検や定期点検をこまめに行い、保育環境をよくするために美化に努めたり、施設設備の補修を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備や整備の点検を定期的実施し、草引きやペンキ塗り、木の伐採等について自分たちで行って美化に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで行うことが多くなる等、保育活動の充実に向け事前準備等に時間が取れない。限界もあり市への要望事項としてあげていく。</li> </ul>	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の取り扱いに留意して、鍵のかかる書庫に管理したり、使用記録簿に記入したりして徹底管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報については、書庫で徹底した管理を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>書庫は鍵をかける等の管理の徹底ができたことで、個人情報の管理はできた。また、書類文書の作成についてはU S B等の利用をなくした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報管理の研修会に参加したり、共通理解できる機会をつくったりしたことのできたので今後も徹底した取り組みをしていく。</li> </ul>	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						